

# ぼくのお父さん

菅原 琉生すがはら るい

ぼくのお父さんは、ぼくが、二年生の時にできたお父さんです。それまでは、お母さん一人で、ぼくとお姉ちゃんを育ててくれました。お父さんは、ぼくとお姉ちゃんをととても大切に育ててくれていました。

お父さんは、ぼく達家族が住んでいる須賀川から、いわきまで一時間半の道のりを毎日運転して仕事に行っています。いわきに、住む所を探すことも考えたそうですが、いつでも子ども達の顔を見ていたい。と、長い通きん時間の方を選んだそうです。

そんなお父さんは、週末の休みになると、ぼくと公園へ行つて、サッカーを教えてくださいます。お父さんにたくさんおそわつて、ぼくはサッカー大会で、じゅんゆう勝がとれるくらい強くなりました。いつかゆう勝して、お父さんをよるこばせたいです。

週末天気が悪くサッカーがやれない日は、ぼくやお姉ちゃんをどこかにつれ出してくれます。ゲームセンターにつれていくくれたり、本屋さんに行つて本を買ってくれたりします。ぼくは、ゲームセンターに行つて、ぼくたちとゲームをしているお父さんが、ぼくたちよりも楽しんでるように見える時もあります。夜は、お母さんが日ごろ家事をしてくれているので、週末くらは休んでね。というお父さんのやさしきで男りよう理を作つてくれます。ぼくは、お父さんが作るりよう理の中で、一番カレーライスが大好きです。お父さんは、カレーの肉に下味を

しつかりつけます。そして、カレーこをませた後にも、かくし味を入れていきます。とつてもお肉がやわらかくて、おいしいです。夜ごはんが、お父さんが作るカレーだと分かると、家族みんながよるこびます。そのくらい大人入です。

ぼくは、お父さんとおふろに入ると、サッカーの話や、友だちの話をよくします。お父さんは「うん、うん。」と、ぼくの話聞いてくれます。だからぼくは、お父さんのせなかをあらいながら、たくさん話します。お父さんとおふろに入つてる時間やサッカーをしている時間は、お父さんを一人じめしている感じがしてとてもうれしいです。

そして、昨年ぼくに弟ができました。ぼくは、ずっと弟がほしいと思つていたのでお母さんのおなかの中に赤ちゃんがいると聞いた時はとてもよるこびました。赤ちゃんがおなかをけるようになつたころ、赤ちゃんが男の子だと分かつて、ぼくはもつとよるこびました。今はまだつかまって立つくらいしかできないけど、もう少し大きくなって、走れるようになったら、ぼくとお父さんと二人でサッカーをしている公園に、弟もつれて、三人でサッカーをやりたいです。

おこつた時のお父さんは、とつともなくこわいけど、ぼくはお父さんが大好きです。お父さん、ぼくたちのお父さんになつてくれたいです。